



初心

生徒指導主事 濱島 章浩

『初心忘るべからず』室町時代に能楽を大成させた世阿弥が著わした「花鏡」の最後の部分で繰り返して述べられている言葉です。物事を始めた最初のころの気持ちを忘れてはいけないという戒めの言葉で、初心者はもちろん、大ベテランに至るまで、芸を身に付けていくそれぞれの段階に「初心」があり、それを忘れてはいけないと説いています。現在では広くさまざまな分野で引用され、たくさんの方が座右の銘にしておられます。本校のホームページでも紹介がありましたが、先月は、上神谷咲良先生が第3学年を中心に教育実習をされました。機会に恵まれ、上神谷先生の授業を参観させていただきました。初めての授業で非常に緊張されたとのことでしたが、黒板にチョークで書く文字は丁寧で見やすく、教室の隅々まで届く声、子どもたち一人ひとりを大切にされた机間指導などは、既に教育実習の範疇を超えているようでした。また、朝は笑顔で子どもたちを昇降口で迎え、休み時間には校庭で子どもたちと走り回り、放課後は昇降口で子どもたちを最後の一人まで見送るなど、真摯に子どもたちと向き合う姿には、経験を重ねていくうちにややもすると忘れてしまいがちなことを思い出し、私自身のこれまでの教育活動を省みる機会となりました。私が教師になって一年目のとき、4年生の社会科の授業をしているところを校長先生が参観され、「この先あなたはきょうの学習内容の授業を何度もするだろうけれど、子どもたちは一度きりなんだよ。そのことを生涯忘れずに授業をしなさい。」と教えてくださいました。上神谷先生は、教育実習生でありながらその覚悟があるような授業をされており、私は一人冷や汗をかきながら授業を参観していました。そんな私が生徒指導主事のお役をいただいてから3度目の秋を迎えました。2学期の初日に校舎内を巡回していると、ある教室から大歓声が聞こえてきました。学級活動でお楽しみ会をしているのかなと思って教室をのぞくと、そこはなんと算数の授業をしているところでした。1学期に学習したことから一段階難しくなった問題に挑戦し、見事に正解できた歓声だったので。子どもたちと先生が一体となって問題に取り組み、できた喜びを分かち合う様はまるでオーケストラのようでした。感激に浸りながら廊下でたたずんでいると、授業を終えた男子児童が満面の笑みを浮かべて私のところに来て、「きょうの算数とっても楽しかった！初めての問題で難しかったけどできて嬉しかった！」と話してくれました。子どもたちは、日々たくさんのお話をしてくれます。私も教師になったころの「初心」を忘れずに、子どもたちの話一つひとつに耳を傾けていきたいと心を新たにしております。子どもたちの個性を伸ばし、自己実現に向けた支援を教職員一同チームで取り組んでまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

10月の行事予定

期日	予 定
4 火	弁当の日
7 金	野口雨情記念館出前授業（3年）
12 水	北・高小学校陸上記録会（6年）
13 木	6年生6時間授業
18 火	校外学習（1年） 弁当の日
19 水	校外学習（2年） SC来校 校外学習（5年1組・午前）
20 木	校外学習（5年2組・午前） クラブ
21 金	就学時検診 全学年12：25下校（給食あり）
25 火	校外学習（4年）
27 木	6年生6時間授業



【3年・校外学習】
社会科の学習の一環として、北茨城消防署やよう・そろー（漁業歴史資料館）等を訪問しました。



【4年・食とSDGs】
スクールライフサポーターである江森さんをゲストティーチャーに招き、野菜に関する学習を行いました。

